

言語脳科学者が教える 危ない英語教材の見分け方

今度こそ英語を身に付けようと一念発起したものの、書店には数多くの書籍が並び、過去にもあまたのベストセラーがある。言語脳科学者の酒井邦嘉教授に危ない教材の見分け方を聞いた。

毎日聞き続けても 上達しない理由

「聞き流すだけ」のうたい文句で大ブームを巻き起こしたスピードラーニング。2021年に事業を廃止したというニュースは大きな話題となった。スピードラーニングは1989年から事業を開始。毎月3800円（税別）で定額制学習プログラムのCD教材が届き、各回につき英語音声のみと英語と日本語音声のCDが2枚セットで、「聞くだけで英語が話せるようになる」と話題になった。昨年新しい形態でリスタートしたが、当時「どれだけ聞いても話せるようにならなかった」という声も耳にする。本当に聞き流すだけで英語は身に付くのか。聞くことと、語学の習得の関係について、東京大学の酒井邦嘉教授はこう話す。

「音を聞くことは語学の習得において非常に効果的です。ただし、同じものを繰り返し聞くということが重

要です。覚えてしまうまで、同じものを繰り返し聞くこと。同じものを聞き続けられ、短期記憶が長期記憶に変わります」

スピードラーニングでいうと、届いたCD教材を覚えるまで聞かないうちに、別のCDが届いたからもう次の教材へ、という使い方ではいつまでも英語は身に付かないというこ

PIXTA



と。スピードラーニングだけでなく、英語のリスニング力がないうちに、背伸びして米CNNや英BBCといった海外ニュースを毎日聞き続けシヤワーのように英語に触れていても効果は薄いということだ。

聞く教材といえば、高速で聞くことで耳を英語に慣れさせようというコンセプトのものもある。しかし初心者が高速で英語を聞くことは、英語の習得には逆効果だという。

「初心者にとってはむしろ『ゆっくり』聞く方が効果的でしょう。通常のスピードでも英語の音をキャッチできていない部分があるのに、高速で聞いて聞き取れるはずがありません。ゆっくり聞き始めて、徐々にスピードを上げていきましょう」

発音を徹底して学ぶことでリスニング力を上げようとする教材もあるが、英語をきちんと聞けるようにならないければ正確に発音できないため、最初は聞くことを徹底した方がよいという。加えて、個々の単語を正しく発音できることよりも、文のどこを強調するかの方が大事だ。

「個々の発音よりも文全体のアクセント、どこを強く読むかが重要です。単語をきれいに発音できていても、文のどこを強調するかによって意味が変わってくるケースもあります」

語源を学ぶことで単語は覚えやすくなるという教材もあるが、そも

そも自然に生まれた言語を規則化することは難しいという。

「語源を知ること、言語の奥深さを知ることができます。英語に触れることが楽しくなる点ではよいでしょう。しかし単語の語源の規則を理解したところで、例外はたくさんあります。単語を覚えるために語源を知りたいとすると、難しいかもしれません」

また、単語を覚えても、文を作れなければ英語は話せない。日本語では名詞だけでも会話になるが、英語は動詞がなければ意味が伝わらないからだ。そのため、文のパターンを覚えることは効果的。しかし「これだけのパターンを覚えてから大丈夫」という考えには注意が必要だ。

「文法のパターンも単語と同様、無限にありますし、例外だらけです。自然の言語を規則に無理やり当てはめることなどできないのです。ですから、これを覚えてから英語が身に付く、というパターンはありません。いかに英語に触れるか。まさに習うより慣れよだといえます」

語学と音楽の習得は非常に似ていると酒井教授は話す。歌い方を理解したからといって、歌うことが上手になるわけではない。語学も同じ。上達するためには、教材に頼るのではなく、英語に触れ続けることだ。

構成・富田ユウリ